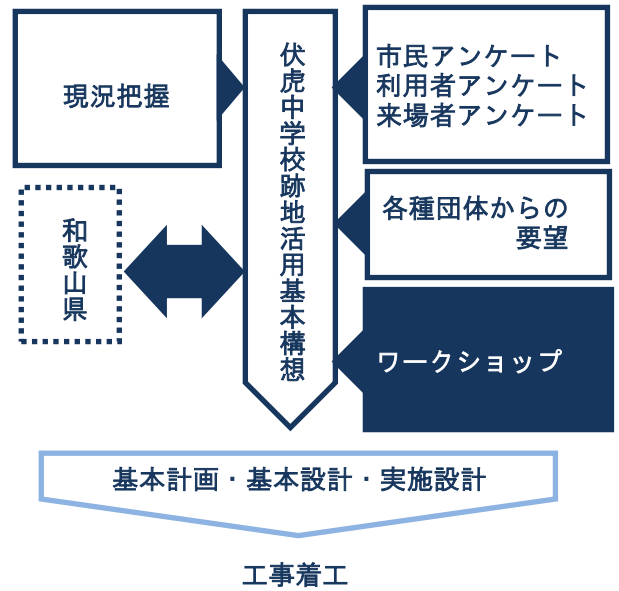


伏虎中学校跡地に移転予定の 新たな市民会館を考えるワークショップ

和歌山市は、伏虎中学校跡地に市民会館の移転や、和歌山県立医科大学の薬学部を誘致することを検討しているため、施設整備の方針を示す「伏虎中学校跡地活用基本構想」の作成を進めています。

本ワークショップは、計画の初期段階である基本構想づくりから、市民や利用者の意見をお聞きしていくために、市民アンケートとともに実施するものです。

ワークショップは、移転する新たな市民会館のあり方・施設概要を様々な市民・利用者の視点から検討するものとし、その多様な考え方・結果は、基本構想づくりの基礎資料としていきます。



発行：和歌山市 総務局 企画部 企画課

和歌山市 教育委員会事務局 生涯学習部 文化振興課

第5回

平成27年9月18日
市民会館 (19:00～)

市民会館でどうしても実現したいこと!!



木村副市長からワークショップの参加及び

ご意見等に対してのお礼から始まりました。

話し合いの内容

各チームでは、これまで話し合ってきたことや、他チームで話されていたことなど様々な提案・アイデアを参考にしながら、新しい市民会館でどうしても実現したいものについて話し合いました。

ホール、展示室など施設の規模や形状、施設をどんな人がどのような使い方をするのか、どんな館長を迎えどんな運営・催しものを実現していくのか、利用者・使用者の声を反映できる仕組みなど、どうしても実現したい施設、設備、仕組みについて話し合いました。



A グループ

市の全体構想に基づいた活用を進める

- ・和歌山市の全体構想を基にした市民会館
- ・伏虎中学校跡地には和歌山城を活かせる施設

■市民の意見を反映させる仕組みをつくる

- ・運営委員の団体を作る
- ・市民の意見を尊重できるシステム
- ・市民も参加できる運営システム



- ・舞台、音楽関係者と一般使用の意見も聞きたい
- ・ホールを設計するときは裏方さんも含め話し合ってもらいたい

■現在の市民会館はベリーグッド⇒現市民会館以上の施設にする

- ・ホールとして日本一を目指す
- ・現市民会館は規模で日本一のホール
- ・現市民会館が使えればよかったのですが、新しい会館も同じ大小ホールは絶対必要
- ・現市民会館の規模大、中、市民ホール
- ・大ホール 1000～1200 席、中ホール 700 席
- ・大ホール 1000 席、中ホール 600～800 席
- ・大ホール 800～1000 席
- ・中ホール 500～600 席
- ・小ホールは音楽ホール
- ・大ホールは下の階に持ってくる

■ユニバーサルデザインにする

- ・施設周囲の雨除けの設備
- ・段差のないフロアー
- ・エレベーターはガラス戸。中が見える、中から見える
- ・案内板、字幕表示・電光掲示板
- ・手話通訳者に対してのライト、照明
- ・障害者用トイレ

B グループ

大きな視点

和歌山市のビジョン: ここだけでなく全ての公共施設の再配置を考えていく必要がある

■多目的ホール：多くの人が使える多機能な、本物のホールが必要

- ・多目的は無目的と言われるが、全国にはすばらしい多機能ホールがある
- ・メインホールとして多目的中ホールが必要、公民館レベルでは困る／演劇は生の声が聞こえないといけない
- ・音楽ホールは、釘がさせない、オペラや発表会ができない
- ・多目的ホールに相反する音楽ホールはあれば欲しいが、県民文化会館に任せたい
- ・芸術は搬入から始まる／搬入にリフトが必要なら初めから気を使った設計が必要
- ・楽屋も十分な広さ数が必要
- ・若者の利用を促進するには、スタジオや荷物ロッカーの充実
- ・高齢者の利用を促進するには、高齢者に優しい設計

■駐車整備は（和歌山市の施設にとって不可欠なもの）文化

- ・フォルテや県民文化会館、市民会館も、竣工後に駐車場を増床している
- ・駐車場確保は死活問題／人が集まるためには、車が集まれる場所にする必要がある
- ・周辺の駐車場は時間によって満車となっている
- ・若者の利用を促進するには、駐車場が必要
- ・高齢者の利用を促進するには、駐車場が必要

C グループ

■市民会館づくりのビジョンづくりについて「交通を含め周辺市街地と一体的に考える」

- ・市民会館を含め周辺市街地をどのようなエリアにするべきと判断したのかを公表して欲しい
- ・市民会館単独ではなく公共交通「LRT」を含め中心市街地の核となるように
- ・和歌山城⇔市民会館⇔ブラクリ丁⇔市駅 の動線の青写真を発表して欲しい

■市民会館は文化の拠点にして欲しい

- ・市民会館は文化の拠点なので展示施設を充実して舞台ホールなどは伏虎中跡地以外の広いところでも良い
- ・文化ゾーンにして欲しい／ホールは小さくとも使いやすいもの

■薬学部との共存は難しいのではないか

- ・薬学部は危険な薬品を使用し研究を行う一方で、賑わいや芸術を演出する市民会館とのマッチングは難しいのでは
- ・薬学部との共存は疑問

- ・薬学部は断念して市民会館に集客施設も併設したい／中層ビルでとどめる

■薬学部が来るなら積極的に活かすようにする

- ・医大の薬学部と連続的に計画し、若者が流入しやすい市民会館にして欲しい

■敷地に関連する事項・・・「屋外環境を豊かに（緑の空間、屋根付き空間）」

- ・まちを活性化するため、まちと一体的に使える市民会館にして欲しい
- ・屋外環境を緑豊かに、また広場を設ける
- ・屋外イベントステージ（屋根付き）
- ・本町イベントと連動する（雨天時の対策に現状困っている）
- ・伏虎中跡地を南北に分断している道路を敷地に取り入れて、一体の土地として活用したい
- ・バス客の乗降は、交通渋滞をさけるために敷地内に乗降場をつくって欲しい

■周辺の景観に配慮した建物にする

- ・お城の周辺景観を活かしたデザイン、規模、形状として欲しい
- ・まちのランドマークとして誇れる市民ホールにして欲しい

■市民会館やホールは、和歌山の木を活かした外観で音質の良いホールを持つ市民会館に

- ・ホールは音質の良い1000人席規模の多目的ホールに
- ・シューボックス型ホールに（市内にない施設）
- ・県民文化会館との棲み分けができる施設にして欲しい
- ・市民会館は木にこだわる木質のホール、全て木造の市民会館を
- ・栗東市の文化ホールのようなホールに1票
- ・現市民会館より良いものにして欲しい／現市民会館は出来た当初は素晴らしい市民会館で多くの有名な人も呼ぶことが出来た／新市民会館も有名人でも呼べる市民会館にして欲しい
- ・今よりも良い市民会館が出来ないのなら、現市民会館をリニューアルした方がよい

■付属施設の充実

- ・市内に音楽練習場がないので、ホール内に練習場を確保して欲しい（100人規模）

■完成後の管理運営方法

- ・利用者のネットワークづくりと利用者の意見収集体制を充実し、利用者の意向に沿った運営をして欲しい
- ・芸術拠点として継続して利用するために、みんなが使いやすい管理運営の組織づくり、予算の確保が必要
- ・練習場、屋外イベントスペースは閉館時間でも利用できる運営体制にして欲しい。

■今後の進め方についても市民の意見を取り入れて進めて欲しい

- ・今後基本設計が進んでいく中でも途中経過を市民に分かるようにし、ワークショップを継続するなどの進め方をして欲しい

D グループ

市民に感動を与えるホールに！！

■音楽ホール

- ・音楽ホール
- ・音響設備がしっかりしたホール
- ・400～500 席程度
- ・200 回開催／年

■多目的ホール

- ・演劇中心の多目的ホール
- ・1000 席程度
- ・バックヤードが大切+運搬がスムーズにできるように

■展示ホール

- ・各学校の文化展示ができる展示ホール
- ・展示の感想が集められる仕組み

■駐車場

- ・台数増
- ・料金を安く

■料金(使用料)

- ・たくさんの方が使えるように使用料を安く
- ・学生料金の設定、高齢者料金の設定
- ・イベントができる市民会館 例) まちコンみたいなイベント

■専門スタッフ

- ・イベント能力が高い館長
- ・相談できる専門スタッフ(アドバイザー)

■市民参加の運営委員会の設置／ホール経営が大事

- ・運営・経営に関するプロ

■ホールの規模を早く決めてオープンにしてほしい

E グループ

■特別な利用

- ・常設展示が可能であり、大規模な展示から小規模な展示まで対応
展示室の規模の多様性(可動式) (大きさを分ける)、その際隣の声が聞こえないように、また入口の位置も配慮が必要
- ・大ホール (1200 のキャパ)
- ・中心部におけるコンベション

■防災時の施設

■日々の練習など

- ・防音面を考慮した練習室
- ・ワークショップできる練習場 : 練習室と兼用で会議室にする
- ・制約が少ないほうがいろいろ使えてよい (例: 生花の水／お茶の炭など)

■プロの舞台で市民が発表できること（展示とホール）

- ・励みになる／喜び／充実
- ・あなたには無理ということがないように誰でも使えるように

■全体的なこと

- ・雨に濡れずに乗り降りできる場所の確保
- ・バリアフリーであること　：みんな共通して使えること
音声解説システム／ホールの座席・室名などの点字や大きな文字表記／バリアフリー（遠回りしなくてよいように）／誘導ブロック／段差の表示／災害時の誘導・避難口

■運営

- ・大学との共有機能にする　例：レストラン／コンビニ
経営的に大学の常時利用を主体にして会館利用者も利用する

■今後の計画づくり、細分化した検討に向けて

- ・専門性が必要な部分はそれぞれの専門家との検討・確認
- ・人が用事があっていく場所になるように考えてほしい
- ・敷地も一体的にできるといいな（市道、駐車場）
- ・駐車場利用の割引サービスなど細かい配慮

閉会の挨拶

事務局より、第1回から第5回にわたりワークショップに参加し・熱心に議論して頂いたことへのお礼とともに、本ワークショップを含め、市民アンケートからも頂いた多くの方からのご意見・ご提案を参考に、今後素案を作成していくことを皆さんにお伝えしました。また、素案については再びこのような場を設けて、ご提示させて頂くこともあわせてお伝えしました。

和歌山市総務局長川端からは、お礼とともに今後素案についてご提示した際にも引き続きご意見・ご協力を頂きたいことをお伝えしました。

また、市民会館担当の生涯学習部長北より、現在の稼働率や県民文化会館との棲み分けから、1,000席前後のホールと、500席ぐらいのサブホールを検討していきたいこと、更に舞台の大きさや袖といったことを、皆さんに教えていただきながら、規模は決定していくことをお伝えしました。今後、皆さんのご意見からも「文化を育てる」といったコンセプトや運営についても考えていく必要があります、1～1.5ヶ月に一回位で集まって頂き情報交換をしながら、いい市民会館づくりを進めていくことをお伝えしました。



和歌山市総務局長 川端



和歌山市教育委員会事務局 生涯学習部長 北